

主 題：新しい人生を生きる

聖書箇所：ヨハネの福音書 3章1-15節

どうすれば天国に入ることができるのか——。これが主イエス・キリストが教えられたことでした。まさにこれは私たちひとりひとりにとっても、あなたにとっても最も大切なことです。

きょう私たちは、ヨハネ3：1-15までを学ぶのですが、この中には、ある夜ユダヤ人の指導者が主イエス・キリストのもとにやって来た様子が記されています。その人物の名前はニコデモでした。彼も多くのの人々と同様に主イエス・キリストの奇跡を見たり、また彼の教えを聞いた時に主に対して大変な関心を抱きました。感謝なことに彼は真理を知るために主イエス・キリストのもとにやって来るのです。その様子が1節のところから記されています。

ヨハネ3：1-15

- 1 さて、パリサイ人の中にニコデモという人がいた。ユダヤ人の指導者であった。
- 2 この人が、夜、イエスのもとに来て言った。「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられるのでなければ、あなたがなされるこのようなしは、だれも行なうことができせん。」
- 3 イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」
- 4 ニコデモは言った。「人は、老年になっていて、どのようにして生まれることができるのですか。もう一度、母の胎にはいって生まれることができますでしょうか。」
- 5 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国にはいることができません。」
- 6 肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。
- 7 あなたがたは新しく生まれなければならない、とわたしが言ったことを不思議に思ってはなりません。
- 8 風はその思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」
- 9 ニコデモは答えて言った。「どうして、そのようなことがありうるのでしょうか。」
- 10 イエスは答えて言われた。「あなたはイスラエルの教師でありながら、こういうことがわからないのですか。」
- 11 まことに、まことに、あなたに告げます。わたしたちは、知っていることを話し、見たことをあかししているのに、あなたがたは、わたしたちのあかしを受け入れません。
- 12 あなたがたは、わたしが地上のことを話したとき、信じないくらいなら、天上のことを話したとて、どうして信じるでしょう。
- 13 だれも天に上った者はいません。しかし天から下った者はいます。すなわち人の子です。
- 14 モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。
- 15 それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」

◎ パリサイ人ニコデモ

① 行いによって天国に行くことができると思っていた

ニコデモという人物のことが記されています。「パリサイ人」であり「ユダヤ人の指導者」であり、また「教師」であったと。もし私たちがこのニコデモにあなたはきょう死んだとしたらどこに行きますかという質問をしたとしたら、間違いなく彼は「天国です」と答えたでしょう。なぜならば彼は大変熱心な信仰者だったからです。ここに「パリサイ人」と書かれています。これはユダヤ教徒たちの中でもモーセの律法を厳格に守ろうとしていた人たちです。ということは、この人たちは行いによって天国に行くことができるのだと信じていました。

② 聖書の知識を持っていた

また同時に、ニコデモは大変な聖書の知識を持っていました。イスラエルの「教師」で、「指導者」でした。恐らくイスラエルを治める最高裁判権を持ち、祭司や律法学者、パリサイ人たちの中から選ばれた者たちで構成したサンヘドリンという組織のメンバーの一員で、大変な尊敬を博した人でした。

③ イエスを信じていると思っていた

そして、このニコデモはイエスを信じていると思いついでいる人物でした。2：23にイエスの奇跡を見た者たちがイエスを信じたとあるように、恐らくニコデモもイエスの奇跡を見、イエスの話を聞いてイエスを信じていると思っていたのです。

☆ 天国に入るための条件

そのニコデモがイエスのもとにやって来ました。3節を見ると、このニコデモに対してイエスは大変直接的にすばらしいメッセージを語っています。「イエスは答えて言われた。『まことに、まことに、あなた

に告げます。」、重要なことを話す時にこのような言い方をなさるのですが、「人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」、これがイエス様がニコデモに最初に語ったメッセージです。イエス様はここで、まさに天国に入るための条件についてお話になりました。どうすれば天国に入ることができるのかをニコデモに話されたのです。自分は天国に行けると思い込んでいる人物に対してイエス様はなぜわざわざそんなことを話したのか——。実はこのニコデモは救われていなかったからです。天国に入ることができない存在だったからです。でもよく考えてみると彼は「ユダヤ人の指導者」であり、「教師」だったのです。ユダヤ教に大変熱心で、よい行いを積むことによって自分は天国に行ける、律法をしっかり守っていれば自分は天国に行けるのだと信じていた、そのニコデモに主はこのようなメッセージを語られたのです。

A. ニコデモが天国に行けない理由

なぜ彼が天国に行けないのか、幾つかの理由があります。

1. 宗教に救いを求めたから

彼は宗教によって救いを求めたからです。彼はユダヤ教という信仰を持って、その信仰に熱心であれば、自分は天国に行けるに違いないと思い込んでいたのです。その彼に対してイエス様が言われたことは、どんなに宗教心があって、どんなに宗教に熱心でも、どんなによい行いを一生懸命行い続けてもそこに救いはないと。我々の周りには宗教と名のつくものがあふれています。神が言われることはそこには救いはないと。こういったことを一生懸命守り続けているから、先祖を崇拝し続けているから、先祖から引き継いできた信仰を守っているから私はきっと天国に行ける。しかし神は、まさにこのニコデモに言われたように、あなたは天国にふさわしくないとされるのです。

2. 知識に救いを求めたから

ニコデモが天国に行けない二つ目の理由は、彼は知識を蓄えることによって救いを得ることができると思っていたのです。彼は「ユダヤ人の指導者」であり、「教師」でした。学びにたくさん出て、たくさんを知ればと、知識を蓄えた。イエス様は、あなたがどんなに熱心に聖書を学び、知識を蓄えたとしても、知識によって救われることはないと言われるのです。

3. 自分勝手な方法で救いを求めたから

もう一つ、このニコデモが救われていなかった理由というのは、彼は自分勝手な方法で救いを求めていたからです。ニコデモは自分は救われていると思っていました。その根拠は一体何ですかと我々が問うたとしたら、先ほども触れましたけれども、群衆と同じようにイエスの奇跡を見て、イエスのメッセージを聞いたから自分はこのイエスを信じていると思い込んでいたのです。

実はヨハネ 2：23 にそのことが書いてあるので一緒に見てみましょう。「イエスが、過越の祭りの祝いの間、エルサレムにおられたとき、多くの人々が、イエスの行なわれたしるしを見て、御名を信じた。」、イエスを信じたと書かれてあるのです。これだけを読むと、イエス様の奇跡を見た人たちが、イエス様の話を聞いた人たちがイエス様を信じて罪の赦しをいただいた、天国へ入る許可をもらったように見えますが、24節に「しかし、イエスは、ご自身を彼らにお任せにならなかった。」と書いてあります。日本語では非常にわかり辛いのですが、23節の「信じた」ということばと24節の「お任せに」ということばは全く同じことばを使っています。つまり多くの人々がイエスを見て信じたけれども、イエスは彼らを信じなかったということです。それがこの箇所が教えていることです。その後理由が書いてあります。「なぜなら、イエスはすべての人を知っておられたからであり、また、イエスはご自身で、人のうちにあるものを知っておられたので、人についてだれの証言も必要とされなかった」と。つまりイエス様は、例えばあなたのことを知るために、だれか別の人にあの人はどんな人かを聞く必要はないのです。誰に聞かなくても、イエス様はその人のすべてのことを知っているのです。つまりあなたのすべてのご存じです。その神がこの「信じた」と言う人たちの心をご存じなのです。イエス様は彼らが信じたと言っても、彼らは心から信じていないことをご存じでしたから「お任せにならなかった」、イエス様は彼らを信じなかったのです。つまりこの人たちは救われていなかったのです。

ニコデモの問題は、自分の努力によって天国に入れると思っていたことです。頑張ればきっと最終的に自分は天国に入ることができるのだと思い込んでいた。イエス様は彼にそれが間違いだということを伝えるのです。自分の努力によって天国に入れる人はひとりもいないと。

B. 天国に入る方法

さて、ニコデモに対してあなたは天国に入ることができないのだということを告げた主は、その後、ではどうすれば天国に入ることができるのか、どうしたら救いにあずかることができるのか、どうすれば罪の赦しをいただくことができるのかについてお話になったのです。非常に大切なメッセージを主はニコデモにお話になりました。

1. 自分には救いが必要なことに気づく：新しく生まれ変わる

まず最初に、イエス様がこのニコデモに働きかけて導こうとするのは、ニコデモ自身に自分には救いが必要なのだということを感じさせることでした。もう一度3節を見ると「人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」とあります。イエス様はここで救われること、新しく生まれることが救いの条件だと教えています。救われるためには新しく生まれ変わることが条件だと。新しく生まれ変わるということは、人として生まれ変わることではないのです。もう一回母の胎に入って生まれてくる、そんな話をしていないことは明らかです。ニコデモもそんなことを尋ねました。イエス様はそれを完全に否定しておられる。なぜならそれは不可能だからです。

この「新しく生まれ」るの「新しく」というのは天からとか神から生まれるということ。つまり「新しく生まれ」というのは神によって生まれ変わるということ。人として生まれて来た者が神によって罪赦された者として、永遠のいのちをいただいた者として生まれ変わるということ。天国民として生まれ変わる話です。生まれながらに、天国民でない人が天国民として生まれ変わる話をイエス様はここでされたのです。あなたが新しく生まれ変わることなくして、「神の国を見ること」はない。「神の国」というのは天国と同じ意味があります。そして、「見る」というのはただ自分の目で見るというよりも経験するという事です。だから新しく生まれ変わらなければ天国に入ることはできない、それを自分のものとして経験することができないのだと、主がお教えになったのです。ですからイエス様はここで神によって生まれた者だけが「神の国」である天国に入ることができるのだと教えたのです。

ある人はこの箇所を見ていてこう思うかもしれません。「人は、新しく生まれなければ」、天国に入るとはできませんと言った方がもっとわかりやすいのではないかと。なぜならここには「神の国を見ることはでき」ないと、「神の国」を経験することができないとあります。なぜ「神の国」ということばをあえてお使いになったのかです。少なくともこうしてみことばを見る時に、この「神の国」という表現によって、天国に入る方法、救いを得る方法を主はより明確にされたということ。救いにあずかるというのはどういうことなのかをこの表現でもってより明確に主はなさったのです。こんなふうに思う人がいます。例えば天国に行くためには天国行きの切符をもらいさえすればいいのだ、天国に行きたいから切符を下さいと。果たしてそういうことを神が私たちに教えているのかどうかです。先ほどもお話したように、イエス様はここでニコデモに対して、まずあなたが本当に天国に行きたければ、まずあなたは自分には救いが必要だということを感じなければならぬと教えるのです。それをこの「神の国」ということばを使うことによってそれをより明確にしたのです。

どういうことかという、この「国」ということばを使った以上、そこにはその国を治める王がいるのです。そしてその民はその王に服従するのです。王国が存在すればそこに王がいて、民はその王に従っていくのです。「神の国」と言った以上、この国を治めておられるのは神だと言うのです。そして、その民はその神に服従する者たちだと。まさにこれが救われた者たちの特徴だと言うのです。私たちは生まれながらにみんな「神の国」に属する者たちではありません。なぜならこのメッセージは「神の国」にどうしたら入ることができるのか、どうしたら天国に行けるのかということ。ニコデモだけではない、我々も含めて人間はみんな生まれながらには天国に入ることのできない存在だからです。そこでどうしたらいいのかを教えるのです。なぜ入れないかという、私たちは生まれながらに神ではなくてサタンに支配されてきた者たちだからです。我々を造った神様に従うのが当たり前なのです。でも私たちはその神ではなくて、神でないものに仕える選択をして生きてきたのです。

皆さんに今お話ししていることを理解していただくためにコロサイ1:13を見てください。「神は、私たちに暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。」とあります。この箇所は生まれながらの私たちのことをわかりやすく、しかも正確に教えてくれています。生まれながらに私たちは「暗やみの圧制」の中にいたと言うのです。この「暗やみ」ということばは「罪」や「悪」のことです。また比喩的にサタンを指したことばです。「圧制」というのは「力」とか「権威」、また「その領域」ということです。ですからこの箇所が私たちに教えているのは、我々人間というのはみんな生まれながらに例外なく、悪や罪、またサタンの支配のうちに、またその奴隷として生まれ、生きてきたということです。あなたも私もみんな罪や悪の支配下にいた、サタンの支配下にいた。サタンの奴隷として生きていたと。それが私たち人間だと言うのです。それが証拠に私たちが生まれながらにしてきたことは創造主なる神が喜ばれることかというとうそではない。神が憎まれることを喜んで平気で私たちは行い続けてきました。

リストを挙げると、「彼らは、あらゆる不義と悪とむさぼりと悪意とに満ちた者、ねたみと殺意と争いと欺きと悪だくみとでいっぱいになった者、陰口を言う者、そしめる者、神を憎む者、人を人と思わぬ者、高ぶる者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者、わきまのない者、約束を破る者、情け知らずの者、慈愛のない者です。」と、ローマ1:29-31です。つまり私たちは生まれながらに、自分の人生だと思って好き勝手なことをやって来たのです。自分が楽しめばそれでいい、自分がよければそれでいいと。その人生を

振り返った時に、私を造ってくれた神様を喜ばせようという思いがみじんだりともなかったでしょう？私の神様に喜ばれるように生きていきたいという思いはない。どうしたらもっと自分を喜ばせられるか、どうしたら自分をもっと満足させるか、どうしたら自分をもっと楽しめるかと、自分のことしか考えていなかった。こうして神によって造られた私たちが、造ってくれた神を全く無視して、好き勝手に生きていた。それはまさに神の敵であるサタン自身の生き方です。彼は創造主なる神に従うどころか、自分を神として自分の思いのままに生きています。そして私たちの歩みを見た時に、まさにだれが主人なのかははっきりします。創造主ではなく、神の敵であるサタンです。そしてそのことをパウロはこの聖書の箇所を通して私たちに教えてくれたのです。ですから、生まれながらの人間はみんなサタンの支配下にいた、サタンの奴隷であった。あなたもそのひとりです。

コロサイ 1 : 13を見ると、救いというのは「暗やみの圧制から」、サタンの罪の束縛からあなたを「救い出して、愛する御子のご支配の中に」置いてくれた、仕える存在がサタンから神に変わったということです。罪を愛する者から神に喜ばれることを愛する者へと変わったということです。この13節の「神は、私たちを暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中」の「ご支配」ということばは、今私たちが見てきたヨハネ 3 : 3にある「神の国」と同じことばなのです。「神の国」と言ったら、神がその主権者であられ、王であられ、その方がすべてを治め、すべてを支配しておられるということです。今まではサタンの奴隷で、サタンに支配されていた私たちが、そこから解放されて神様に仕える者、神の奴隷として、神の支配のもとにある者へと変えられたのだとパウロは言います。イエス様が「神の国」ということばをお使いになることによって、一体だれが我々信仰者の主人なのかを示されたのです。その主人は神であり、神を主人として仕えている者たちはこの「神の国」に入るにふさわしい者たちだと教えられたのです。

ニコデモは確かに宗教心にあつかったし、すばらしい人間でした。しかし、この話し合いで、イエス様がニコデモに言ったのは、それでも救いには不十分だということでした。だからまずニコデモが気づかなければいけなかったのは、自分がどんなに自分を変えようと努力しても、そんな強い決心をしても、それでは救いにあずかることがないということです。だから、私たちが気づくべきことは、私には救いが必要だということです。なぜならニコデモがイエス様のところに来た時、自分は救われていると思っているから、救いを必要としているとは思っていませんでした。そこでイエス様は彼にあなたには救いが必要なのだ、あなたの罪は赦されなければいけない、あなたの罪は神によってきよめていただく必要があることを明らかにさせたのです。それはあなたにも必要です。あなたとあなた自身の生活を振り返った時に、あなた自身がまず知らなければいけないことはあなたには罪の赦しが必要だということです。

2. 自分の努力で得ることはできない：救いは神の賜物

二つ目にここでイエス様がニコデモにお教えになったのは、この救いというのは実は神の恵みなのだという事です。5節「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国にはいることができません。」「水と御霊によって生まれなければ」と書いてあります。そうでなければ「神の国にはいることができません」、でなければ天国に行けないという話です。「水と御霊」とは一体何かというと、「水」は旧約聖書においては比喩的に霊的きよめを意味したのです。だからイエス様はまずあなたの罪がきよめられることが必要だと言われたのです。そしてあなたは聖霊なる神様をいただくことが必要なのだと。なぜなら私たちクリスチャンは聖霊なる神様が内住している者たちです。この世の中には聖霊が内住している人と内住していない人がいるのです。内住している人はクリスチャンであり、内住していない人はそうでない人たちです。我々クリスチャンはこうして神によって罪が赦されて、聖霊なる神をいただいた者です。つまりこうして救いにあずかった、その人だけが神の国に入ることができるのだと。

また5節には「生まれ」という動詞が出ています。この動詞は受け身で書かれています。つまりイエス様は、あなたの罪がきよめられて、あなたのうちに聖霊が内住する、この救いというのは実は神があなたに与えてくれるものですと言われているのです。これは神からの恵みだと言うのです。ニコデモは一生懸命頑張って救いを得ようとしたのです。今も多くの人たちがそうです。宗教に熱心だったら、信仰心さえ持っていたらきっと私は天国に行けると。でも神様が言われるのは、あなたがどんなに努力をしたってあなたの努力によって救いを得ることはない。なぜなら救いは神があなたに下さるプレゼントであって、あなたが努力して勝ち取るものではないのです。でもそんな人が世の中にあふれています。

6節から見ると、イエス様は「肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。」と言われます。「肉によって生まれた者」、つまり私たちはおぎゃあと肉体を持って生まれてきます。この私たちがどんなに努力をしようとも、私たちは自分を変えることは不可能なのです。もちろん行動面において少し変えることはできるでしょう。でも心を変えることはできません。私たちの心を神の前に喜ば

れるきよいものに変えることはできない。イエス様は「御霊によって生まれた者は霊です」、つまりこの救いにあずかった者は、罪のさばきや力から解放されるだけではない、神に喜ばれる人へと変えられていくと言われたのです。救いは神が与えてくれるものだと言いました。その救いをいただいた私たちは神によって変えられるのです。イエス様はそのことを風の話を使って説明するのです。風は見えないけれども、旗がたなびいたり、木や葉っぱが揺れたりして吹いていることはわかります。いろいろなことを通して風が吹いているということに私たちは気がつきます。神がなさる救いのみわざも同じだと言うのです。神がその人を救ったら、その人のうちに神の働きは始まっていくのです。そしてその人が神によって神が喜ばれる人へとますます変えられていく。神に喜んで従っていきたい、そして神がその人を変えていくのです。神に敵対していた者が、神に背を向けて生きていた者が神を愛する者として、神に従う者として変えられて新しい人生を歩み始めたと。だから神が下さる救いというのは、変えられる人生、神様によって新しくされる人生、そんな人生を歩み始めるのです。

ですから、イエス様はニコデモに対して、ニコデモよ、悲しいけれども、真実は、宗教的で聖書的な知識を持っているあなたは救いにあずかっていない、ゆえにあなたは天国に入ることができないと言われたのです。天国に入るためにはまずあなた自身が、私は救いが必要だということに気づいていなければいけないと。二つ目にあなたがどんなに努力をしても、自分の努力で救いを得ることができないということに気づかなければいけない、これは神からの賜物なのだ。

C. 救いを拒む者への警告：頑なな心

そのことを教えた上で、イエス様はこの救いを拒む者に対する警告を発するのです。残念ながらこのメッセージを聞いてもニコデモは主の救いを受け入れようとはしませんでした。その問題点についてイエス様はお話になるのです。

10-12節「イエスは答えて言われた。『あなたはイスラエルの教師でありながら、こういうことがわからないのですか。まことに、まことに、あなたに告げます。わたしたちは、知っていることを話し、見たことをあかししているのに、あなたがたは、わたしたちのあかしを受け入れません。あなたがたは、わたしが地上のことを話したとき、信じないくらいなら、天上のことを話したとて、どうして信じるでしょう。』」と。11節に「あなたがたは、わたしたちのあかしを受け入れません」とあるように、イエス様が初めてこの真理を語ったのではないのです。その前にはバプテスマのヨハネもいたのです。旧約の時代も多く預言者がいたのです。彼らも語ったメッセージは同じです。我々罪人が気づくべきことは、私は救いが必要であり、私はどんなに自分で努力をしても自分で自分を救うことはできない、神の憐れみが必要なのだということです。でも人々はそのメッセージを聞いても、信じようとしなかった。罪人の問題は救いのメッセージを聞いても、それを信じたくない、その不信仰の心なのです。

なぜなら神があなたの罪を赦すと言われているのに、神があなたを新しく造りかえる、新しく生まれ変わることができるのだ、神はそれを恵みとして与えてくれるのだと話しておられるのに、あなたはそれを拒んでいるのです。イエス様が「地上のことを話したとき、信じない」と言われました。イエス様が地上に来られた時に、その教えを通して、その奇跡を通してご自分がだれなのかを明らかにされた。この方こそ約束されていた救世主です。この方こそ人となられた神です。でも人々はそれを信じなかった。イエス様は言われるのです。この地上にあって私のメッセージを信じようもしない、奇跡を見ても信じようもしないあなたたちが、これから私がすることを話したとて、なぜそれを信じることができるかと。問題なのは、何を聞いても信じないとする頑なな心なのです。イエス様の奇跡を見たら信じるのではないかと思いませんか？でもイスラエルの民が証明しました。モーセとともに生きたあのイスラエルの人たちがすごい奇跡を目撃したにもかかわらず、彼らは神を信じようとはしなかった。新約の時代でも同じです。イエス様が来られた時にイエス様のみわざを見たにもかかわらず人々は信じなかった。今2章の中で見てきたように。ひょっとしたら彼らはイエス・キリストをすばらしい預言者として信じたかもしれない、偉大な人と信じたかもしれない。でも悲しいことに彼らは救われなかったのです。なぜならイエス・キリストがまことの神であり、救い主であることを彼らは信じなかったからです。主はここでニコデモに対して、ニコデモ、あなたに私は真実を話していると。でも問題なのは真理を聞いてもあなたが真理に心を開かない、その頑なさの問題があると。その頑なさの主は責めるのです。

D. イエスは約束の救世主

そして最後にイエス様はもう一度ご自分がだれなのかを明らかにするのです。イエス様はご自分が約束の救世主なのだということをお明らかにされたのです。民数記21章のモーセと青銅のヘビの話を使ってお語りになるのです。民は「ホル山から、エドムの地を迂回して、葦の海の道に旅立っ」ていきます。民は、途中で我慢できなくなって神とモーセに逆らうのです。なぜ我々をエジプトから連れ上ってきたのかと。ここにはパンもないし水もない、マナにもう飽き飽きしたと。そこで神が「燃える蛇」、猛毒の

へびを送られるのです。恐らく噛み付かれたら大変な痛みがあったのでしょう。その結果、多くの人々が死んだのです。こういうことが起こると、人々は神様！と、まさに苦しい時の……です。その時に神は「燃える蛇」を作ってそれを旗ざおの上につけなさいと命じます。すべて蛇に噛まれた者はそれを仰ぎ見たら生きると。そして確かにモーセは青銅の蛇を作って旗ざおの上に乗せ、どこからでも人々が見えるように高く上げるのです。その話を聞いて、そうだと思って見上げた人もいるだろうし、そんなことあり得るかと言って見上げなかった人たちがいる。おわかりのように、見上げなかった人たちはみんな死んでいったのです。

イスラエルの教師であるニコデモはこの出来事のことには重々知っています。あえてイエス様はイスラエルの人々がよく知っているこのことを使って、ニコデモに大切なことを教えたのです。あの荒野で人々がどうして青銅の蛇を見上げたか——。蛇に噛まれた人たちは、迫り来る死から自分自身は逃れるすべがないことに気づきました。死が来るのを待っているしかないのです。なぜなら自分が走り回ればとか、何かすれば助かるかという自分で自分を助けることはできないのです。しかし、同時にあの青銅の蛇はこの迫り来る死から私を救うために造られたもので、この青銅の蛇を仰ぎ見たら死から救われるという約束がされている。そのことをただ信じて行うだけで、その人たちは約束されていたようにその死から救い出されたのです。

イエス様はここで、同じように神はあなたを救ってくださるという話をするのです。ご自分によって、主イエス・キリストによって、あなたを新しく生まれ変わらせてくださるのだと。イエス様はここでモーセが荒野で蛇を上げたように、ご自身も「また上げられなければなりません。」と言われます。もうイエス様は既にあの十字架に上げられました。イエス様が十字架で何をなさったのか——。あなたの罪を赦すためにすべてのことをしてくださったのです。なぜならあの十字架はあなたの身代わりでした。あなたが本来ならば自分で自分の罪のさばきを受けるべきところ、あなたを造った神があなたの身代わりとなって死んでくださった。だから私たちがイエス様の十字架を見上げた時に、そこで何を知るかという、神の前に自分がいかに罪深い存在であるかです。イエス・キリストのいのちが自分のために犠牲とならなければ、私には救いが与えられないのです。それほど大きな罪を私が犯して来たということです。私たちがイエス様の十字架を見た時にそこに何を見るか——。我々を造られた神は聖い方であって、どんな罪をも赦されない、必ず罪に対するさばきをもたらすお方だと。そして同時に我々が十字架を見た時に、こんな罪深いどうしようもない私を神は愛してくださったことを見るのです。

イエス様がニコデモに教えられた内容をもう一度思い出してください。ニコデモに教えたかったのは、あなたは人として立派かもしれない、宗教的に非常に熱心かもしれない。でもあなたは救われていない。ニコデモ、あなたは私には救いが必要だということをまず気づかなければいけない。同時にあなたはどんなに頑張っても自分の努力で救いを得ることはない、そのことに気づかなければいけない。あなたに救いをもたらすことができるのは、私だけだとイエス様は言われたのです。なぜなら、イエス様だけがあなたの身代わりとなって死ぬからです。イエス様はキリスト教を説きに来たのではないのです。イエス様はいのちを捨てるために来てくださった。あなたの身代わりとなってあなたが受けなければいけない罪のさばきを受けてくださるために来てくださった。だから救い主なのです。彼は教祖ではないのです。救い主なのです。罪のない方があなたのすべての罪を負って、あなたの身代わりとなってあなたの罰を受けて、そしてあなたのために完全な救いを備えてくださった。みことばがこう続きます。「それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つ」と。永遠のいのちを持つかどうかの鍵は「人の子にあって」、イエス様なのです。あの十字架であなたのために死んでくださったイエス様をあなたの救い主と信じるかどうか、そこにかかっていると。

神様はニコデモに生まれ変わるチャンスを与えてくれました。そして感謝なことにニコデモは生まれ変わり、主イエス・キリストを信じるのです。イエス様が十字架に架かった後、その遺体を引き取りに行ったひとりの人物がニコデモでした。彼はこの主の救いを受け入れたのです。今、神様は同じことを、この救いにあずかっておられないあなたに対して願っておられます。あなたにも新しく生まれ変わるチャンスを与えてくださっています。あなたのすべての罪を神は赦してくださると今言っておられる。それを拒んではいけないのです。もしあなたがそれを拒むのなら、あの荒野にあって毒蛇に噛まれて死んだイスラエルの人たちと同じように、あなたも自分の罪を負って永遠の滅びへと至ります。今救いを受け入れることです。どんなに罪に染まった人生でも神はその人生をきよめてくださる。神の国にふさわしいものにしてくださる。「神の国」に、天国に入る者にあなたを造り変えてくださるのです。この恵みを拒んではいけません。この救い主を拒んではいけない。

きょう皆さんに心からお勧めするのは、救いがあるということです。あなたは新しく生まれ変わることができるということです。そのためにはまず自分に救いが必要であることを知りなさいと。人間の努力では絶対に救いを得ることはない。神の恵みによってのみ救われるのです。そしてこのイエス・キリ

ストだけがあなたを罪から救ってくださる救い主です。その証拠はあの十字架にあり、三日後の復活です。あなたのために来られたこの救い主を信じて罪の赦しをいただくことを心からお勧めします。それが私たちがクリスマスをお祝いする理由です。救い主が来てくれたのです。きょうがあなたにとってこの救いの日となることを心から願います。